

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	61人	算数	61人	理科	62人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	69人	算数	69人	理科	69人
------	----	-----	----	-----	----	-----

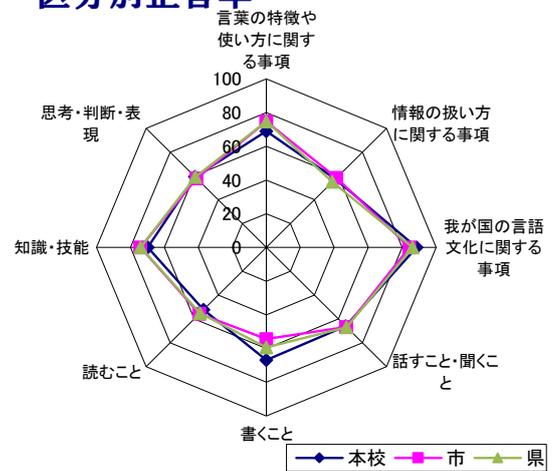
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本北小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	69.0	74.7	74.8
	情報の扱い方に関する事項	57.4	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	88.5	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	66.0	66.7	66.9
	書くこと	66.8	54.3	59.3
	読むこと	52.3	55.6	55.2
観点	知識・技能	69.8	74.1	74.0
	思考・判断・表現	59.3	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

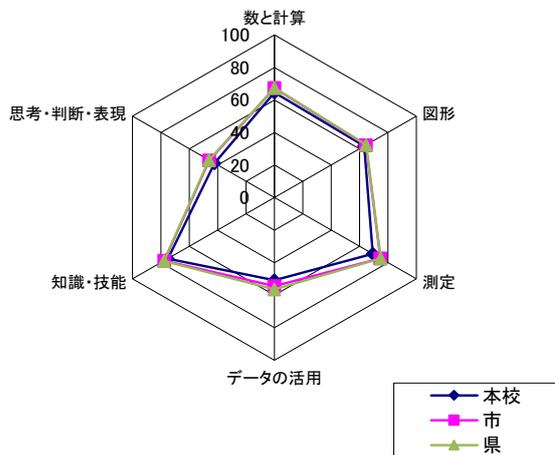
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○主語と述語についての設問の平均正答率は72.1%で、県の平均正答率を6.2ポイント上回っている。 ●漢字を正しく書くことについての設問の平均正答率は「薬局」が33.7%、「短い」が29.5%であり、どちらも県の平均正答率を大きく下回っている。 ●ローマ字の表記についての設問の平均正答率は44.3%であり、県の平均正答率を約15ポイント下回っている。	・漢字の読み・書きに関して、AIドリルを効果的に活用しながら、授業中だけでなく家庭学習でも繰り返し練習する機会を設けて定着を図る。 ・文章を漢字に置き換える「文づくり」などを取り入れ、漢字を活用する機会を増やしていく。 ・漢字の小テストを定期的に行い、定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	○国語辞典の使い方を理解し、例文で使われている言葉の意味を選択する設問の平均正答率は57.4%であり、県の平均正答率を2.4ポイント上回っている。	・国語辞典で言葉の意味を調べる活動を適宜行う。 ・意味調べについて、ノートへのまとめ方など家庭学習の参考となるよう紹介する。
我が国の言語文化に関する事項	○漢字のへんやつくりについての設問の平均正答率は88.5%であり、県の平均正答率を2.4ポイント上回っている。	・漢和辞典で部首を調べたり、同じ部首をもつ漢字を集めたりする活動を取り入れるようにする。
話すこと・聞くこと	○「相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話す」についての設問の平均正答率は80.3%であり、県の平均正答率を5.8ポイント上回っている。 ●司会者の話し方の工夫についての設問の平均正答率は63.9%であり、県の平均正答率を12.8ポイント下回っている。	・インタビュー活動などを通して、メモをとりながら要点を押さえて聞く機会を設けるようにする。 ・話し合い活動において、どの児童も司会を務める経験をさせ、円滑な話し合いについて体験的に学習できる機会を設ける。また、話の中心となることは何かを意識して聞けるよう、課題の与え方を工夫したり、話し合いのポイントを確かめたりできるようにする。
書くこと	○「指定された長さで文章を書く」についての設問の平均正答率は65.6%であり、県の平均正答率を9.9ポイント上回っている。 ○「段落の役割について理解し、2段構成で文章を書く」についての設問の平均正答率は54.1%であり、県の平均正答率を9.6ポイント上回っている。	・自分の考えを文章に書く活動を多く取り入れるとともに、段落構成や文字数などの条件を指定し、正しく書けているかを確認できるようにする。
読むこと	○「叙述を基に文と文のつながりを捉えている」についての設問の平均正答率は47.5%であり、県の平均正答率を7.2ポイント上回っている。 ●「登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えている」についての設問の平均正答率は32.8%であり、県の平均正答率を16.8ポイント下回っている。 ●「文章を読んで感じたことや分かったことを共有する」についての設問の平均正答率は32.8%であり、県の平均正答率を12.9ポイント下回っている。	・物語文では、根拠を明らかにして登場人物の気持ちや場面の様子を捉えるよう促すことで、叙述に即して読み取る力の向上を図れるようにする。 ・読み聞かせや朝の読書の時間で読書の推進を図ったり、朝の会や国語の時間に好きな物語や感想を伝え合う時間を設けたりすることで、文章を読むことに慣れさせ、豊かな想像力を育てるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.6	67.3	67.4
	図形	63.3	64.5	64.7
	測定	69.3	74.7	74.9
	データの活用	50.8	54.4	56.4
観点	知識・技能	75.0	77.6	77.8
	思考・判断・表現	42.3	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

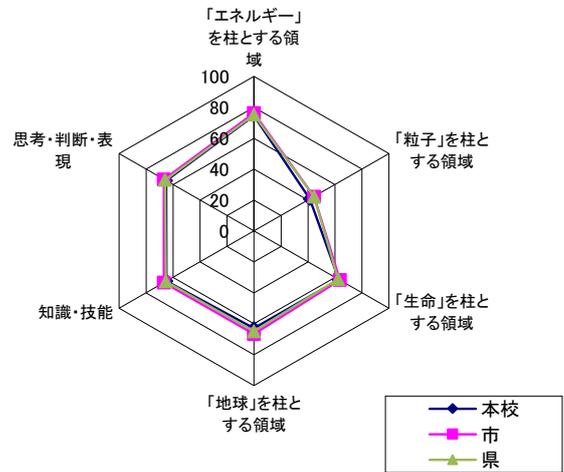
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○「3けた－3けた＝3けた」についての設問の平均正答率は86.3%であり、県の平均正答率を約7ポイント上回っている。</p> <p>○「整数－少数第一位の計算」についての設問の平均正答率は57.4%であり、県の平均正答率を約9ポイント上回っている。</p> <p>●「数直線で、目盛りが表す数の大きさを理解し、分数で表すことができる」についての設問の平均正答率は26.2%であり、県の平均正答率を約20ポイント下回っている。</p> <p>●「万の単位について理解し、大きな数の表し方や構成を理解している」についての設問の平均正答率は68.9%であり、県の平均正答率を約12ポイント下回っている。</p>	<p>・朝の学習や宿題等を通して、計算問題を繰り返し取り組みませ、基礎基本の更なる定着を図る。</p> <p>・数直線の目盛りを等間隔に書くことで視覚的に分かりやすくしたり、1を何等分したうちのいくつ分かを確認したりして、分数についての基礎力を伸ばせるようにする。</p> <p>・4桁ごとに区切ることを徹底することで、大きな数の表し方や構成を読み取れるようにする。</p>
図形	<p>○「半径と直径について理解し、球の性質を利用し長さを求めることができる」についての設問の平均正答率は68.9%であり、県の平均正答率を約4ポイント上回っている。</p> <p>○「二等辺三角形を作図する」についての設問や「円の性質を考え、コンパスを使って正三角形が作図できることを説明することができる」についての設問の平均正答率は県とほぼ同じである。</p> <p>●「円の中心とコンパスの使い方について理解している」についての設問の平均正答率は50.8%であり、県の平均正答率を約9ポイント下回っている。</p>	<p>・様々な図形を描いたり、図形の性質を問う課題に取り組みせたりすることで、図形についての基礎力・応用力を高められるようにする。</p>
測定	<p>○「はかりの目盛りを読みとり、重さを答えることができる」についての設問の平均正答率は県とほぼ同じである。</p> <p>●「地図から道のりを読み取って、その和を求めることができる」についての設問の平均正答率は80.3%であり、県の平均正答率を約8ポイント下回っている。</p> <p>●「時間が経過する前の時刻を求めることができる」についての設問の平均正答率は70.5%であり、県の平均正答率を約10ポイント下回っている。</p>	<p>・「時刻と時間」については、自分の身近な問題としてに取り組めるよう日常生活と結び付けた問題を提示したり、既習した事項を復習する機会を設けたりすることで、知識の定着を図る。</p> <p>・実物時計や数直線を活用し視覚的に捉えられるようにすることで、時刻と時間の問題に対する理解を深められるようにする。</p>
データの活用	<p>●「棒グラフを読み取り、2番目に多かったスポーツを答える」についての設問の平均正答率は86.9%であり、県の平均正答率を約2ポイント下回っている。</p> <p>●「2つの棒グラフで1目盛りの数が異なることに注意しながら、棒グラフを読み取ることができる」についての設問の平均正答率は14.8%であり、県の平均正答率を約9ポイント下回っている。</p>	<p>・問題の文章の中で重要な言葉に線を引くなどして、何を問われているのか確実に考えられるようにする。</p> <p>・棒グラフから様々な情報を正確に読み取り、それを基に気付いたことを話し合ったり文章に表したりすることで、考えをまとめられるようにする。</p>

宇都宮市立岡本北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	74.6	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	41.4	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	62.9	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	62.9	66.6	64.9
観点	知識・技能	65.0	66.8	65.4
	思考・判断・表現	65.1	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○「電気の通り道」の「電気を通す性質のあるものの名称」についての設問の平均正答率は79%であり、県の平均正答率を17.4ポイント上回っている。</p> <p>●「風とゴムの働き」の表から結果を推測する設問では、県の平均正答率を7ポイント下回っている。</p> <p>●「磁石の性質」の「鉄くぎが磁石になったか確かめる方法」についての設問では、61.3%あり、県の平均正答率を9.2ポイント下回っている。</p>	<p>・児童が自分の考えをもてるよう、予想・実験・考察の時間を十分に確保する。</p> <p>・電気や磁石の単元では、身近なものに関連付けて考えさせたり、考察を自分の言葉で書くことができるようにしたりすることで、単元全体への意欲向上と学習内容の理解を深めることができるようにする。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○「物と重さ」の「同じ種類の木でできている積み木を答える」設問の平均正答率は83.9%であり、県や市の平均正答率を大きく上回っている。</p> <p>●「形を変えた粘土の重さを選ぶ」設問についての平均正答率は33.9%であり、県の平均正答率を11.8ポイント下回っている。</p> <p>●「姿勢を変えて測った体重がどのようになるかを選び理由を答える」設問についての平均正答率は6.5%であり、市や県よりも大きく下回っている。</p>	<p>・実験内容を捉えたり、知識を具体的な場面に置き換えて考えたりする問題の正答率が低い。実験方法を考えたり、知識を日常生活と関連させたりする場面を設定し、知識の確実な理解と活用力の向上を図れるようにする。</p> <p>・自分の言葉で理由を書いたり説明したりする活動を多く取り入れ、表現力の向上を図れるようにする。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○「こん虫のからだのつくり」の「昆虫か昆虫ではないか」についての設問の平均正答率は77.4%であり、県の平均正答率を7.8ポイント上回っている。</p> <p>●「こん虫の育ち方」の「成長時期による食べるえさの量の変化」についての設問の平均正答率は58.1%であり、県の平均正答率を5.7ポイント下回っている。</p> <p>●「身近なしぜんのかんさつ」の「記録カード」についての平均正答率は83.9%であり、県の平均正答率を3.9ポイント下回っている。</p>	<p>・昆虫の飼育や観察をする際には、その昆虫の育ち方を調べたり、観察の視点を示したりしながら、成長過程の違いについて理解できるようにする。</p> <p>・植物を育てる活動において、観察する際に色や形、特徴など注目する視点を示すことで、観察の技能の向上と学習内容の理解を図れるようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○「太陽と地面の様子」の「温度計の使い方を選ぶ」設問の平均正答率は79.0%で、県の平均正答率を7.0ポイント上回っている。</p> <p>●「かげと太陽の位置についてあてはまる内容を選ぶ」設問の平均正答率は83.9%であり、県の平均正答率を6.4ポイント下回っている。</p> <p>●「太陽の位置の変化を方位で答える」設問の平均正答率は38.7%で、県の平均正答率を5.3ポイント下回っている。</p>	<p>・太陽の動きと方位、かげのでき方等について、実験結果と既習の知識とのつながりを関連させる指導を丁寧に行い、新たな知識の獲得、及び定着を図れるようにする。</p> <p>・実験や考察等の時間を十分に設け、実験・観察の技能の向上と学習内容の理解を深められるようにする。</p>

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習についての設問では、「自分で計画を立てて勉強している」「テストで間違えた問題について学習している」についての肯定的回答は、いずれも県を大きく上回っている。3教科(国語・算数・理科)との関連については、上記の設問に「はい」と回答した本校児童が「いいえ」と回答した本校児童の平均正答率を3教科とも6ポイント以上上回っている。「学校の宿題をしている」についての肯定的回答は県を上回っており、3教科との関連については「はい」と回答した本校児童が「いいえ」と回答した本校児童の平均正答率を国語で10ポイント、算数で9ポイント、理科で8ポイントとも大きく上回っている。「学校の授業時間以外に、月～金曜日、1日当たりどれくらいの時間勉強しているか」については「3時間以上」と「30分以上1時間より少ない」と回答した児童が市や県を大きく上回っている。3教科との関連については、学年で推奨している50分間程度に当てはまる「30分以上1時間より少ない」と回答した本校児童が「全くしない」と回答した本校児童の平均正答率をいずれも12ポイント以上大きく上回っている。学校の宿題や復習、学習計画作りに地道に取り組むことで、自分の学習へ生かしていこうとする意識が育っている。

○学習に関する設問では「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」「不思議だな、なぜだろうと思うことがある」「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」「毎日の生活が充実していると感じる」についての肯定的回答はいずれも市や県を大きく上回っており、3教科との関連については「はい」と回答した本校児童が「いいえ」と回答した本校児童の平均正答率を3教科とも11ポイント以上大きく上回っている。「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」についての肯定的回答は市や県を大きく上回っており、3教科との関連については「はい」と回答した本校児童が「いいえ」と回答した本校児童の平均正答率を3教科とも17ポイント以上大きく上回っている。学習への興味や課題解決による達成感をもち、将来への見通しに繋がっていることが伺える。

○授業に関する設問では、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができる」についての肯定的回答は、いずれも市や県を大きく上回っており、3教科との関連については「はい」と回答した本校児童が「いいえ」と回答した本校児童の平均正答率を3教科と9ポイント以上大きく上回っている。「友達の話や意見を最後まで聞くことができる」についての肯定的回答は市や県を大きく上回っており、「はい」と回答した本校児童が「いいえ」と回答した本校児童の平均正答率を3教科とも16ポイント以上大きく上回っている。意見交流を通して自分の考えに生かし、学力に繋がっていることが意識されてきた。引き続き、対話的活動を取り入れた授業を行っていきたい。

○生活に関する設問では、家の人と「学校のできごと」「将来のこと」「学習について」話しているかというそれぞれの設問についての肯定的回答は、いずれも市や県を大きく上回っている。「家の人には、ほめてもらいたいことをほめてくれる」「自分にはよいところがあると思う」「失敗を恐れなくて挑戦する」「自分のよさを人のために生かしたい」についての肯定的回答はいずれも市や県を大きく上回っており、3教科との関連については「はい」と回答した本校児童が「いいえ」と回答した本校児童の平均正答率を3教科とも6ポイント以上上回っている。学校の取り組みや児童の生活の様子について、学年だよりやホームページ等で引き続き情報の発信をしながら、家庭との連携を図っていく。

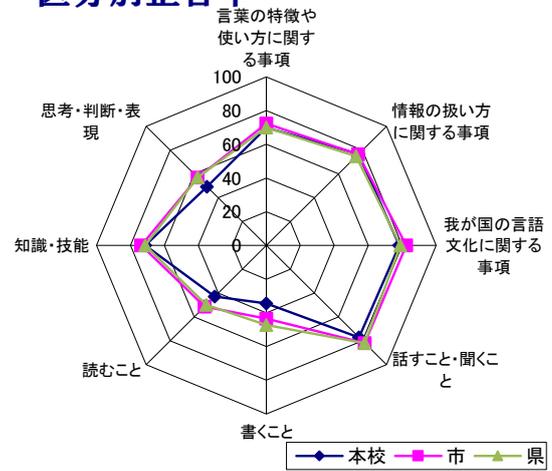
●「授業の最後に、学習したことを振り返る活動を行っている」「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の設問では、肯定的回答がいずれも市や県の平均を下回っている。3教科との関連については肯定的回答をした児童が否定的回答をした児童の平均正答率を3教科とも11ポイント以上大きく上回っている。授業中に自分の考えをまとめ、学習を振り返って「分かった」「できた」と達成感をもち、学習内容の定着に繋がるよう、時間の確保に努めていく。

●「平日のテレビやDVD、動画の視聴時間」についての設問では「1時間以上2時間より少ない」と回答した児童が最も多く、市や県とほぼ同じ割合である。また、「平日のテレビゲーム(携帯やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする時間」についての設問では、「1時間以上、2時間より少ない」と回答した児童の割合が最も多く、市や県の回答を大きく上回っている。一方、「1時間より少ない」と回答した児童が市や県では上の回答と同程度いるのに対して、本校は大きく下回っている。テレビやゲームの適切な利用時間や望ましい使用上のルールについて、学級活動や情報スキル教育を通して考える機会を設定すると共に家庭で確認するように各種便りや懇談会等で促し、家庭への啓発を図れるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	69.9	72.3	70.0
	情報の扱い方に関する事項	76.8	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	78.3	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	77.2	81.9	82.0
	書くこと	34.4	43.5	47.2
	読むこと	42.8	51.4	49.8
観点	知識・技能	71.3	73.6	71.3
	思考・判断・表現	49.3	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

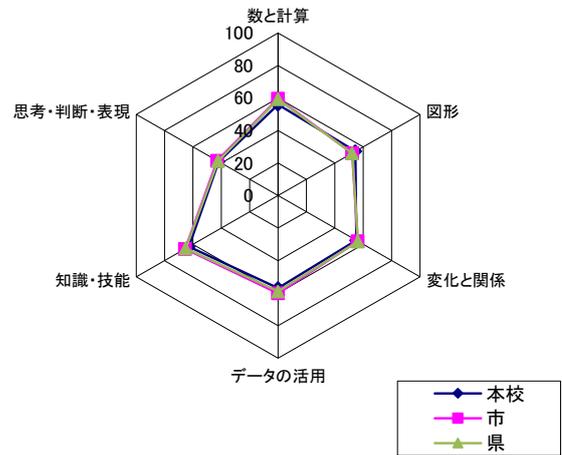
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○「文を読み、様子を表す語として適する語を選ぶ」についての設問の平均正答率は、県や市の平均をやや上回っている。 ●「漢字を正しく書いたり、読んだりする」についての設問の平均正答率は、ほとんどの設問で県や市の平均を下回っている。	・定期的の小テストを行うなどして、漢字の定着を図る。 ・国語の授業だけでなく、普段の生活の中(係活動、連絡帳、掲示物など)で習った漢字を使って文章を書けるように指導していく。
情報の扱い方に関する事項	○「漢字辞典の使い方を理解し、調べ方として適するものを選ぶ」についての設問の平均正答率は、県や市の平均をやや上回っている。	・今後も引き続き、漢字の画数や部首を丁寧に確認しながら新出漢字の学習を行っていく。 ・自主学習で、漢字の成り立ちや意味を調べる内容にも進んで取り組めるように声を掛けていく。 ・漢字辞典に限らず、国語辞典などの使い方も定着できるように言葉の意味調べなども積極的に取り入れていく。
我が国の言語文化に関する事項	●「文を読み、適することわざを選ぶ」についての設問の平均正答率は、県の平均正答率を0.6ポイント下回り、市の平均正答率を4.1ポイント下回っている。	・国語辞典、一人一台端末などを用いてことわざの意味を調べたり、友達とことわざを使ったクイズを出し合ったりする活動を通して、楽しみながらことわざの意味に親しむ機会を設けられるようにする。
話すこと・聞くこと	●「話すこと・聞くこと」の領域の設問では、全ての設問において県や市の平均正答率を下回っている。特に、「意見の共通点に着目して、司会者の発言に適する内容を書く」についての設問では、平均正答率が県や市の平均を5ポイント以上下回っていると共に、無回答率も15.9%と高くなっている。	・聞くときのポイントを整理して、話の要点のみを短い言葉でメモすることを改めて理解できるようにする。 ・話し合いを行う際には、自分の考えと比べて友達の見解との共通点や相違点に着目するなど聞くときのポイントを伝えるなどして、互いの考えのよさに気づき、考えを深め合えるようにする。
書くこと	●「文章を書くこと」の領域の設問では、全ての設問において県や市の平均正答率を下回っている。さらに無回答率は43.5%で、問題に取り組めていない様子も見られる。 ●「アンケートの結果をもとに自分の考えを2つの段落に分けて書く」についての設問の平均正答率は、県や市の平均を10ポイント以上下回っている。	・段落ごとの役割を理解し、自分の考えを内容ごとに整理し文章構成の見直しをもたせることで、読み手に分かりやすい文章を書けるようにする。 ・宿題や自主学習でも自分の考えを書くことができる機会を意図的に設け、文章の内容を整理しながら書くことに慣れるようにする。
読むこと	○物語文の「登場人物の性格を説明した文として適するものを選ぶ」の設問の平均正答率は、県や市の平均をやや上回っている。 ●物語文の「文章を読み、その内容を説明した分の空欄に適する言葉を書く」についての設問の平均正答率は、県や市の平均を10ポイント以上下回っていると共に、無回答率も26.1%と高くなっている。 ●説明文の「文章の要約を読み、空欄に適する語を書き抜く」についての設問の平均正答率は、県や市の平均をおよそ10ポイント下回っていると共に、無回答率も30.4%と高くなっている。	・物語文では、登場人物の様子や気持ちは捉えることはできている。さらに登場人物の気持ちの変化にも気付けるように、文章の構成や山場に着目して読み深められるように読解の視点を示す。 ・説明文では、段落ごとの役割やそのつながりに着目して整理する活動を充実させ、筆者が最も伝えたいことが始めや終わりの段落に書かれていることに気付けるようにし、それをもとに要約文を書けるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.0	59.7	59.2
	図形	54.4	52.1	52.1
	変化と関係	55.1	56.1	56.3
	データの活用	56.9	60.1	58.9
観点	知識・技能	62.9	65.5	65.1
	思考・判断・表現	42.0	42.9	42.4



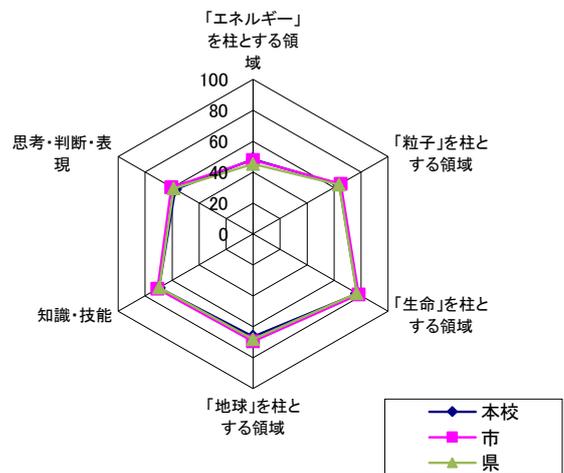
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○小数の大きさについての設問に関する平均正答率は県の平均正答率を4.2ポイント上回っている。</p> <p>●数直線上の目盛りが示す分数を読み取る設問の平均正答率は43.5%で県の平均正答率を10.1ポイント下回っている。</p> <p>●商が小数第一位の計算では、平均正答率が53.6%で県の平均正答率を10.2ポイント下回っている。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・数直線の読み取りに課題が見られたことから、1目盛りの大きさを捉えられるよう、日常の授業でも意識して声掛けを行うようにする。また、家庭学習でも問題演習をさせる。</p> <p>・小数点の動かし方と整数の割り算の問題に課題が見られたため、既習事項を丁寧に振り返りながら指導を進めていく。</p>
図形	<p>○面積の単位の関係を説明する問題の平均正答率は県の平均を15.7ポイント上回っている。</p> <p>●180度より大きい角の大きさを求める問題の平均正答率は46.4%で、県の平均正答率を4.7ポイント下回っている。</p>	<p>・分度器で大きい角の大きさを読み取ることに課題が見られたことから、分度器の使い方を復習したり、鈍角・鋭角を見極めて角度を求めたりして、定着を図るようにする。</p> <p>・他領域の設問より正答率が高いことから、児童の肯定的感情を育てながら、継続的に指導していく。</p>
変化と関係	<p>○数量の関係を図を使って説明する設問の平均正答率は、県の正答率を4.7ポイント上回っている。</p> <p>●数量の関係を文章からもとの大きさの何倍になったかを考える問題の平均正答率は43.5%で県の平均正答率を5.8ポイント下回っている。</p> <p>●伴って変わる2つの数量の関係を読み取る設問の平均正答率は76.8%で、県の平均正答率を4.6ポイント下回っている。</p>	<p>・問題場面を理解できるよう、半具体物や図などを用いて、数量関係や規則性を視覚的に捉えられるようにする。</p> <p>・伴って変わる数量については、数の変わり方のきまりに注目した指導を継続的に行っていく。</p>
データの活用	<p>○2つの折れ線グラフから、必要なことを読み取る設問の、平均正答率は、県の平均を2.0ポイント上回っている。</p> <p>●二次元表を読み取る設問の平均正答率は63.8%で県の平均正答率を16.2ポイント下回っている。</p>	<p>・児童の実態に合わせて、他教科との関連を図り、様々な表についての内容を理解できるようにする。</p> <p>・総合的な学習の時間などで児童が自ら二次元表を作成するなどの活動を設定し、理解を深められるようにする。</p>

宇都宮市立岡本北小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	48.3	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	63.9	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	77.1	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	66.4	69.5	68.1
観点	知識・技能	69.7	70.8	69.5
	思考・判断・表現	57.8	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○「電流の働き」についての設問では、簡易検流計の使い方の平均正答率が6.7ポイント、回路の仕組みについての平均正答率が7.9ポイント県平均を上回っている。</p> <p>●同じく「電流の働き」の設問でも、乾電池のつなぎ方の名称を問う問題の平均正答率は52.2%で、県平均を5.7ポイント下回っている。</p>	<p>・単元内でのそれぞれの実験や結果を関連付けて指導することを意識して、単元全体の理解を深められるようにする。</p> <p>・名称を記述する問題に課題が見られたため、理科で使われる名称の定着を図る工夫をしていく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○「ものの温まり方」で、水の温まり方の設問についての平均正答率は、県の平均を7.6ポイント上回っている。</p> <p>●「温度と体積の変化」の温度によって金属の体積が変化していることを記述式で答える設問の平均正答率は52.2%で、県の平均を7.1ポイント下回っている。</p> <p>●「水のすがた」では、水の温度の変化を表すグラフの選択問題の平均正答率が50.7%であり、県の平均を4.7ポイント下回っている。</p>	<p>・もののあたたまり方のように身近な現象について、グラフや数値と関連付けて学習させるようにする。</p> <p>・実験の予想や結果を記述させる活動を積極的に取り入れることで、理論的な思考を整理して記述できる力をつけていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○「季節と生物」の設問は、全てにおいて平均正答率が県の平均を上回っている。特に、季節によって気温や生き物の様子が変わることを問う設問では、県の平均を3.6ポイント上回っている。</p> <p>●「人の体のつくりと運動」の、関節に関する設問の正答率は、県の平均を4.8ポイント下回っている。</p>	<p>・人体について、実際に自分の体を使った実験を行ったり、名称を繰り返し記述したりする活動を意識して取り入れることで、定着を図れるようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>●「天気の様子」の、晴れの日の気温の変化を表すグラフを選択し、そのグラフを選んだ理由を記述する問題では、正答率が55.1%と、県の平均を9.5ポイント下回っている。</p> <p>●「月と星」の、時間が経った後の星の位置や形についての設問では平均正答率が79.7%であり、県の平均を4.6ポイント上回っている。月の動き方と向きについての設問では平均正答率が66.7%であり、県の平均を4.0ポイント下回っている。</p>	<p>・グラフや数値の解釈を言語化する活動を意識的に設定し、単元への理解を深められるようにする。</p> <p>・月や星など、普段あまり触れる機会のない自然現象について、実験や映像教材を活用することで、より理解が深められるようにする。</p>

宇都宮市立岡本北小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校のきまりを守っている」の肯定的回答は98.6%で、県の平均をおよそ5ポイント上回っており、学校のきまりを守って生活できている児童がほとんどである。これからも高学年としての規範意識をもち、下級生の手本となるような行動を心掛けられるようにしていく。

○「学習して身につけたことは将来の仕事や生活の中で役に立っていると思う」の肯定的回答は100%で、全ての児童が学習する意味や大切さを感じることができている。キャリア教育の更なる充実を図り、自身の将来への意識を継続して高められるようにしたい。

○「自分には、よいところがあると思う」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」「自分の行動や発言に自身をもって」の肯定的回答は全て県の平均を10ポイント以上上回っている。日頃の学校生活の中でも、自分の考えの良さや得意なことを自覚し、前向きな行動や発言がよく見られている。児童会活動など高学年として活躍する機会を通じて、更なる意識の向上を図っていききたい。

○●「平日1日当たりのテレビや動画を観たり、ゲームをしたりする時間」が2時間以上の児童の割合は、県の平均を15ポイント以上上回っているが、「平日1日当たりの通話やメール、インターネットの閲覧の時間」が2時間以上の児童の割合は、県の平均をおよそ3ポイント上回っている。テレビやゲームの時間を意識して使うことはできているものの、メールやSNSの使用については、各家庭と連携して使い方や使う時間についてのルールを決めるなど対応が必要である。

●「平日1日当たりの読書の時間」に「全くしない」と回答した児童の割合は県の平均をおよそ4ポイント下回っている中で、読書をする習慣自体は身につけている。しかし、「30分以上」の児童の割合は、県の平均をおよそ3ポイント下回っている。時間の使い方を工夫することや図書館司書と連携した読書指導の充実を図りながら、児童が読書の楽しさやよさを知り、進んで読書をしよとする意識を高めていく。

●「国語の問題を解く時間は十分でしたか」の肯定的回答は50.7%であり、県の平均をおよそ4ポイント下回っている。約半数の児童が解く時間を足りないと感じており、国語の解答は無回答の児童が後半の問題や記述式の問題になるほど多くなる傾向が見られた。授業の中で、漢字や語彙などの基礎基本の定着を図ったり、文章中のキーワードに着目して読む活動を意識して取り組ませたりして、児童が速く正確に問題を解けるようにしていく。

宇都宮市立岡本北小学校（第4・5学年共通）

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「宇都宮モデル」を踏まえた授業改善の推進と創意工夫した家庭学習の習慣化	「宇都宮モデル」を意識した授業を構成するとともに、「授業改善チェックリスト」を定期的に活用し、授業力と学級経営力の向上を図っている。 家庭学習を必須の課題と自主学習の二本立てとし、基本的な学力の定着と家庭学習の習慣化、学習意欲の向上を図れるようにしている。	「授業の中で目標がしめされている」への肯定的回答について、「はい」と答えた児童が県や市の平均を上回るなど、宇都宮モデルを踏まえた授業構成が少しずつ定着している様子がうかがえる。しかし、県や市の平均を上回ったのは各教科一部の領域に留まるなど、4、5年生ともに、基本的な学習内容の定着には課題が見られる。 「自分で計画を立てて勉強している」や「家で授業の復習をしている」等の設問について、県や市の平均を上回る項目が多く見られる。児童の家庭学習への意欲が向上している様子がうかがえる。
言語活動の一層の充実により、対話的な活動へと発展させる協働的な態度の育成	児童が主体的に取り組める課題を設定し、各教科のねらいを達成に向けて、グループや学級全体での協働的な話し合いを取り入れた授業づくりを進めている。 振り返りの時間を充実させ、学習を自己調整し、学びを次の学習に繋げ、生かすことのできる児童の育成に努めている。	「クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」や、「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」への肯定的回答は、県や市の平均を上回っている。児童が安心して話合いに参加し、学びの充実感を得られる機会が増えている様子がうかがえる。 「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」の肯定的回答は学年間のばらつきが大きい。引き続き、振り返りの時間を充実させる取組を推進したい。
1人1台端末、ICTを活用した授業改善の工夫や地域の教育資源や教育力を有効活用した学習の定着	タブレット端末の日常的な利用を推進し、活用方法についての情報交換と改善を図りながら、児童の学びの充実に生かせるようにしている。	「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」や「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」等への肯定的回答は、学年間のばらつきが大きい。タブレット端末の活用は進んでいるものの、調べ学習のツールとしての利用、及び図書資料の活用等について、課題が見られる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
各教科における基本的な知識・技能の定着と個別の支援の工夫	学習内容の定着を図る復習の充実と、授業における学習支援の工夫	授業や単元における振り返りの時間を充実させるとともに、知識・技能を定着させるための復習の時間を確保する。 一斉指導における支援と個別の支援の双方を充実させ、どの子どもも「分かる」「できる」実感もてる授業づくりに努める。